

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

## 教育を通じて 台湾と宮城をむすぶ



りん ぎ か  
林 宜佳さん  
台湾 雲林県出身  
公益社団法人宮城県観光連盟  
インバウンド支援員  
仙台市青葉区在住

— 宮城県とのご縁について教えてください。

台湾中部の雲林県の出身です。台北の大学への進学を機に、日本語の学習をはじめました。大学卒業後は、せっかくだけに日本語を日本の生活の中で使ってみようという思いから、留学を決意し、東北大学大学院で比較文学を専攻しました。それまで仙台のことはあまり知らなかったのですが、実際に生活してみると交通や買い物も便利で、住んでいる人々もやさしく、仙台での暮らしがとても気に入りました。修士課程修了後は、台北の出版社で3年ほど編集者として働き、日本の書籍の翻訳チェックなどを担当していました。しかし台北での生活は、家賃や物価が高く生活にゆとりがなかったため、仙台の暮らしが恋しくなり、両親を説得して奨学金を得て、再び東北大学で研究をすることにしました。早いもので仙台での生活は10年以上となりました。

— MIA国際理解教育支援事業\*にもご協力いただいていますね。

はい。大学院時代の後輩が、MIAの職員だった縁でこの事業を知り、小・中学校、高校でのプログラムに参加しました。一番印象に残っているのは大和町の小学校です。大きく印刷した資料を見せながら台湾の紹介をしたのですが、みんな目をきらきらさせてたくさん質問してくれました。予想外の質問に驚くこともありましたが、もっと台湾について知りたいという純粋な好奇心を感じて、とても楽しい時間でした。台湾は暑くて体力を消耗するので、体力回復のために高校まで昼寝の時間があるのですが、日本の学校には昼寝の時間がないこともこの事業を通じて知りました。こうして日本の学校事情を知り、子どもたちと接した経験は現在の仕事にも活かされていると感じています。

\*小中高の児童生徒や生涯教育団体などを対象に、外国人講師を紹介し交流の機会を提供する事業。



教育旅行の説明会で通訳をする林さん(写真左)

— 現在のお仕事のことを教えてください。

宮城県は台湾との交流拡大のために積極的に教育旅行を誘致しています。私は2024年の秋から宮城県の観光戦略課、今年4月からは県観光連盟に所属し、教育旅行で来県する台湾の学校と県内の学校のマッチング、誘致のための説明会などを担当しています。日本に旅行経験のある台湾の子どもたちは少なくないのですが、宮城県の農村部での交流や、農泊・民泊経験は新鮮に受け止められています。加えて、台湾は地震も多く、防災に対する意識が高いため、東日本大震災で被災した地域を訪れ、語り部から直接話を聞くことができることも宮城県を選ぶ理由の一つになっているようです。

— 仕事をする上で何か目標はありますか。

私の祖父は台湾が日本の統治下にあった時に日本語教育を受けた世代で、雲林県職員として農業技術を開発するため日本へ視察に行ったり、日本語を中国語(台湾華語)に翻訳する仕事もしていました。私が大学で日本語を勉強し始めたことをとても喜んでくれたのですが、祖父がこの世を去った今、私が宮城県庁で仕事をしていることを知ったらどんな反応をしてくれたのだろうと思うことがあります。これからも仕事を通じて、台湾の方々に宮城のよさを知って頂きたいです。そして仕事を通じ、宮城県と台湾のさらなる交流の促進をお手伝いしていきたいと考えています。

(公社)宮城県観光連盟 事務局長 田村 賢治さんから

林さんは日本語能力が高だけでなく、勤勉でとても仕事熱心です。仙台、宮城についても色々な知識があり、それが仕事をする中で活かされていると感じています。宮城県、県観光連盟として、これからより一層訪日教育旅行の誘致・交流の拡大を進めていく中で、日本と台湾の架け橋となって頂ければと思っています。

# 「みやぎ外国人相談センター」から

## 令和7年度相談受付実績

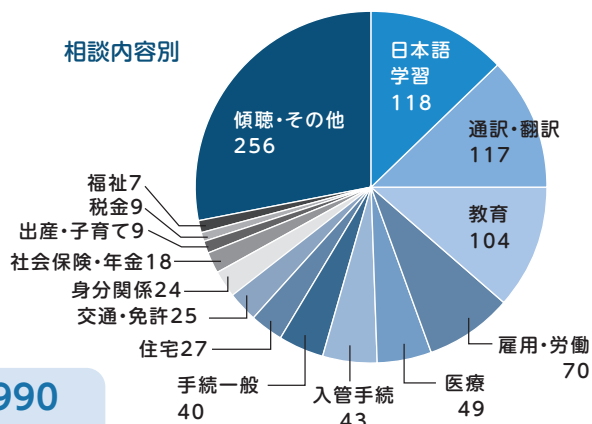
※一件の相談に複数の相談内容が含まれる場合があります

みやぎ外国人相談センターでは、令和7年度868件の相談を受け付けました。対応言語別にみると、日本語での相談が565件で半数以上を占め、ついで英語124件、中国語78件、ベトナム語35件、韓国語、ネパール語、タガログ語が各11件の順に多くなっています。相談者国籍別では、日本378人、中国126人、ベトナム43人、フィリピン32人、スリランカ24人の順となりました。相談内容別では日本語学習、通訳・翻訳、教育、雇用・労働、医療の順となり、内容に応じて仙台弁護士会、宮城県行政書士会などの専門機関と連携の上、対応しました。

**みやぎ外国人相談センター TEL:022-275-9990**

対応日時:月曜～金曜(午前9時～午後5時) ※年末年始及び祝祭日を除く。

相談内容別

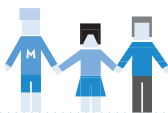
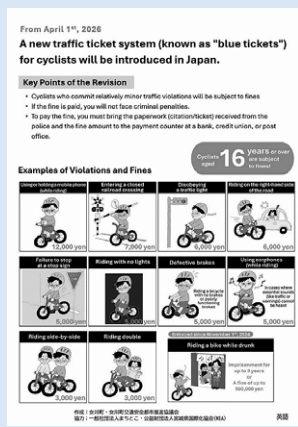


## 多文化 なトピック

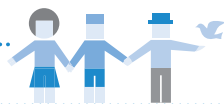
### 自転車利用者向けの多言語ちらしを作成しました

今年度から新しい交通違反切符制度(通称「青切符」)が導入されたことを受け、女川町・女川町交通安全都市推進協議会は、この制度の概要をわかりやすいイラスト付きで説明した資料を多言語で作成しました。対応言語は日本語のほか、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、インドネシア語、クメール語、タイ語、ミャンマー語、ネパール語です。私たちMIAも翻訳に協力しており、MIAのウェブサイトでは全言語のちらしを公開しています。身近な乗り物である自転車を正しく安全に利用するために、ぜひこのちらしをご活用ください。

MIAウェブサイト: <https://mia-miyagi.jp/frommia/bicyclerules>



## シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



### 第18回

### 10代後半で来日した子どもの高校進学

日本で働く外国人の増加に伴い、仕事や生活が落ち着いてから配偶者や子どもを日本に呼び寄せるケースも増えています(※)。子どもが小中学生の年齢だと公立小中学校等に編入学できますが、外国ですでに日本の義務教育に相当する9年以上の教育課程を修了していると、日本の中学校に入ることが難しく、そういった子どもが日本で高校進学を希望した場合、高校受験に関する手続きや受験準備などそのすべてを外国人の親子でしなければなりません。

ここでは一例として昨年4月に15歳で来日したネパール人Aさんのケースを紹介します。来日時点で日本語がまったくできなかったAさんは親子で市役所に出向き、高校進学について相談しました。その後、市役所からMIAに連絡があり、Aさん親子、市役所、支援団体、MIA、ネパール語通訳者を交えて、打合せの場を持ちました。Aさん親子が住む石巻市には毎日日本語を勉強できる場所がないため、仙台のMIA日本語講座に週4回通い、それ以外の時間を仙台市の「外国人の子ども・サポートの会」、石巻市内で日本語教室を運営する「国際サークル友好21」、MIA日本語サポーターがチームとなり、日本語学習と受験準備の支援を同時並行で進めていくことにしました。多くの支援者が関わるため、支援内容や進捗はメールで確認し合いました。

「国際サークル友好21」のみなさんは、「日本語学習や受験準備の支援だけではなく、例えば志望校を選ぶためのオープンキャンパスなども親子は知るはずもなく、行った方がいいとおすすめしましたし、行くとなれば申し込みの手伝い、当日の移動手段の情報提供など、多くのサポートが必要でした。志望校が決まって受験に至るまでも学校との連絡調整、出願等多くの書類の提出、オンラインでの入力が必要ですが、保護者は日本語の資料を読み込むことが難しく、だれかが手伝わなければ受験までたどりつけないことを伴走して初めて知りました。」と、この1年を振り返りました。

そんなAさんは見事公立の高校に合格し、4月から高校生になりました。新しい制服に身を包み、Aさんは毎日元気に学校に通っています。「先生もクラスメイトもみんなやさしくて、いろいろと手伝ってくれます。わからないことがあれば私からも積極的に声をかけるようにしますので、特に困っていることはありません。毎日とても楽しいです。」と、Aさんの高校生活は順調にスタートしました。(宮城県国際化協会(MIA)作成)

(※) 配偶者や子どもを呼び寄せられる在留資格に限ります。



入学式の晴れの日にお母さんと

## ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

## 「みやぎの外国人児童生徒等受入れハンドブック」

(宮城県教育委員会)

県内の小中学校が外国人児童生徒等を受け入れる際に必要な情報を網羅しています。宮城県教育委員会が作成し、当協会も編集に協力しました。紙媒体はなく、PDFファイルをMIAのウェブサイトにて公開していますので、ご自由にご活用ください。

MIAのウェブサイト「外国人児童生徒支援」※ページの中ほどにあります。

<https://mia-miyagi.jp/kodomosupo.html>

## 多文化なトピック

大崎市立おおさき日本語学校  
～開校から一年を振り返って

大崎市立おおさき日本語学校 主任教員 瀬戸 稔彦

昨年4月に、大崎市立おおさき日本語学校が文部科学省による認定日本語教育機関として開校してから一年が経過しました。立ち上げから関わった一人としてこれまでを振り返ると、試行錯誤の連続ではありましたが、確かな手応えを感じる歩みであったと実感しています。

開校前は、学則や教育目標の制定、カリキュラムの設計や教材の選定、教職員の体制や教育環境の整備など、何もなかったところから一つ一つを形にしていく日々が続きました。中でも理念である「新しき和の創造～Creating a New Harmony～」の制定には、全国的にも珍しい公立の日本語学校として、学ぶ側だけでなく、彼／彼女らを受け入れる地域社会にも貢献できる学校のあり方を模索し続けた成果が凝縮されており、今後も本校の道標であり続けるものと考えています。同時に、この理念をいかに日々の教育実践や学校経営の中で具体化していくかは、今後も常に問い続けていかなければならないとも感じています。

開校後はこの理念のもと、校内での学びにとどまらず地域とのつながりを重視してきました。授業内外での交流活動や地域行事への参加を通じて、生徒たちは教室の外でも生きた日本語を使い、多様な人々との関係を築いています。こうした直接的な体験が、ネット空間やAIでは代替できない学びとして機能していることはもちろん、地域の方々にも大変好意的に受け止めていただけていることに、大きな喜びを感じています。

一方で、生徒を迎え入れたことで、準備段階では見えていなかった様々な課題にも直面しましたが、その都度関係者間で話し合いを重ね、解決に向けて丁寧に取り組んできた経験は、本校にとって貴重な財産となっています。

今後は、この一年で得た経験を礎として、より質の高い日本語教育と支援体制の充実を図っていきたいと考えています。そして本校が、宮城県や大崎市と世界をつなぐ拠点の一つとしてさらに成長していけるよう、引き続き力を尽くしてまいります。



地域住民の方を講師に迎えて生け花体験をしました

## MIA日本語サポータービギナー研修会 参加者募集



日本語を学習したい外国人にマンツーマンで日本語を教えるボランティア活動について基礎から学ぶ研修会です。日本語サポート活動を始めたい方、登録はしてみたけれど実際どうしていいかわからないというビギナーの方々におすすめです。

■日時 2026年7月30日(木) 13:00～16:00

■場所 宮城県国際化協会 交流ラウンジ

■内容 地域の国際化と日本語ボランティア活動について、外国語としての日本語、日本語学習教材の紹介、やさしい日本語について、サポート事例の紹介など

■講師 MIA日本語講座スーパーバイザー、MIA日本語サポーター

■定員 20名(先着順)

■申込 グーグルフォーム <https://mia-miyagi.jp/260730beginner> またはEmailにて。

※参加はMIA日本語サポーター登録者に限ります。未登録の方は事前にMIA日本語サポーターへの登録をお願いします。

## 宮城県内に暮らす外国人の数が過去最高を更新しました

出入国在留管理庁の発表によると、2025年末現在の宮城県内の在留外国人数は32,903人となり、過去最高を更新しました。対前年比で約3千人の増加です。新型コロナウイルスが収束し、外国人の入国が再開してから急激に増えていて、ここ数年は増加率も増えています。

国籍・地域別内訳では、数が多い順に中国(約6千人)、ベトナム(約5千人)、ネパール(約4千人)、インドネシア(約3千6百人)となっています。ネパールとインドネシアはそれぞれ4千人以上と大幅な増加を記録しています。

在留資格別では、留学、特定技能(特定の分野で就労する人を受け入れるために設けられた在留資格)の増加が特に顕著で、留学は8百人以上、特定技能は5百人以上増えています。留学生のなかにはアルバイトをして生計を立てる人も多いのですが、各種分野の製造業や外食業などで働く特定技能外国人が増加するのに伴い、同じ分野で仕事をする人が多い留学生にとって、職探しが困難になってきている、という話が聞こえてきています。



## みやぎの国際活動団体

### 国際交流協会ともだちin名取 副会長 高島 幸子さん

名取に住む外国出身者と市民が同じ地域に住む者同士として、同じ立場で学びあい、住みよい「国際都市名取」を実現することを目的とし、日本語講座・多文化共生支援事業を行っています。

日本語講座は今年で20年目を迎えます。学習者一人ひとりに寄り添いたいと考え、講座のはじめにチェックシートでどんな学習を行いたいかを確認し、テキストを使った文法学習や、日常会話の練習など、個々のニーズにあった学習計画を立ててサポートしています。学習の他に野菜の収穫体験やお楽しみ会など交流活動もしています。学校の長期休みの時には小・中学校、高校で学ぶ外国籍の子どもの学習支援も行っています。特に小学生はその時の気分で学習意欲が変わることもあるので、クイズを出してみたり、折り紙をしてみたりと、楽しい活動を取り入れる工夫もしています。その時々で学習者も、ニーズも様々だと感じていますが、日本語を学びにくる方々にとって、ここに来れば話せる人がいて、さみしくないとしてもらえるような居場所でありたいですね。



日本語講座の活動の様子

団体の運営を行うスタッフ、日本語学習を支援するサポーターを募集しています。

名取市およびその近郊にお住まいの方、お気軽にお問い合わせください。

連絡先：国際交流協会ともだちin名取 事務局 tomodachi\_in\_natori@yahoo.co.jp / TEL : 080-5226-5931

## シリーズ 国際理解教育支援事業

### 尚絅学院高等学校の事例

MIAでは、地域における国際理解教育の推進を目的として、県内の小学校・中学校・高校などにMIA登録の外国人講師を紹介し交流の機会を提供しています。2025年度全26回の実績の中から、今回は尚絅学院高等学校(仙台市)でのプログラムをご紹介します。

同校には今年3月、外国人講師9名が訪問しました。当初先生より、総合的な探求の時間で生徒が『外国人との共生には?』というエッセイを書くことになっており、課題のヒントや事例を得たいというお話があったため、講師には事前に母国の紹介だけでなく日本での生活を通じて感じている日本の良さや困りごと、好きになれないことなども話してほしいとリクエストしていました。

実施後の学生のエッセイや感想は、「(ある講師の日本人に対する印象を聞いて)普段は当たり前だと思っている自分たちの行動や言動も、他の国の方から見ると違って見えるのだと改めて気づかされた」、「反日に関する質問にも笑顔で答えてくれた。日本人の間では1つのニュースや記事から沢山の偏見が飛び交ってしまう」など、『外国人との共生』というテーマをより身近に、自分ごととして捉えようという思いが伝わるものでした。外国人と直接話す機会があまり多くない高校生にとって、今回の講師たちとの交流は新鮮な驚きや気づきが促されたプログラムになったようです。

30の国と地域56名の多様で個性豊かな外国人講師たちとの交流に関心がありましたらまずはMIAまでご相談ください。



MIAに登録している外国人講師のみなさん

## 賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格  
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費  
個人会員 / 1口 3,000円  
団体会員 / 1口 10,000円
- 賛助会員の特典  
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙  
倶楽部MIAの定期送付(年4回)

- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法  
◎本協会あて御連絡ください。  
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



## 倶楽部 MIA vol.143

編集・発行  
公益財団法人 宮城県国際化協会  
〒981-0914  
仙台市青葉区堤通宮宮町4番17号  
宮城県仙台合同庁舎7階  
TEL 022(275)3796  
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL https://mia-miyagi.jp

